

## 平成27年度(2015年度)宝塚市きずなづくり推進事業結果評価表

No.	申込団体名	決定額 (円)	自己評価		評価																																																															
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見																																																														
1	大堀川さくらの会	50,000	<p>&lt;実施時期&gt; 大堀川桜並木道花の開花時期から 3月26日(土)~4月8日(金)</p> <p>&lt;場所&gt; 市道622号千大堀川南町橋から宝楽橋のさくら並木道 桜の開花にあわせてお茶席を設け、お花見来場者に抹茶、お菓子のおもてなしを実施。</p> <p>来場者のみなさまから、今年のお花見でほんぼりと短冊がさくらと相まって大変綺麗ですと喜ばれ嬉しさと同時につくり甲斐を感じました。</p> <p>お茶席、ほんぼり、短冊及びお茶のおもてなし等の準備に男子4名 女子15名</p> <p>今年のお花見参加人数 約2,000人(夜桜含む) 高齢者施設 9施設 保育園 1園 障がい者施設 3施設</p>	<p>(1)地域住民の皆様との交流、市内、外の皆様に宝塚市活性化の取り組みである物、事、場の場所として多くの方々に知って頂けたと思います。</p> <p>(2)ボランティア活動の推進、参加者の募集</p> <p>(3)市内の高齢者施設、障がい者施設の方々のお花見参加を頂き喜んで帰られました。いい思い出となられたでしょう。</p> <p>(4)近隣のリハビリテーションの患者様におかれましても良い環境の下で散策を楽しまれております。</p> <p>(5)花の道対岸には、紫陽花広場があり四季折々に美しい花を咲かせます。また、湧水の小さな池の金魚も大きく育ち生き生きと泳いでいます。今年度は、ライトアップ装置を設置し、夜桜も楽しんでいただきました。</p> <p>(6)上記の事業により、多くの人の流れを生み、宝塚市の観光の散策路として生かされます。我われ会員も日頃努力を重ね整備してまいります。</p>	(市民協働推進課) 桜の名所として近隣の施設利用者の皆さんや地域外の皆さんからも認知され、昨年度より約100人参加者が増加したことは、大変意義があることと考えます。今後は、さらに地域の魅力を高め、観光の散策路となるよう期待します。	花の街、宝塚にイメージピタリの活動であり、地域のみならず市全体の活性化につながる素晴らしい企画です。加えて、地域住民の皆さんが、日頃から環境整備を積極的に行っている努力も高く評価します。今後は、地域行事として定着し、様々な人たちが集う場になることを期待しています。																																																														
2	花みずきサロン	25,000	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施時期</th> <th>場所</th> <th>内容</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">平成27年</td> </tr> <tr> <td>6月8日(月)</td> <td>集會室</td> <td>たこ焼きパーティ、雑談</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>7月13日(月)</td> <td>集會室</td> <td>園芸場所の整地・囲い、歌唱指導(ギター)</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>8月10日(月)</td> <td>集會室</td> <td>歌唱指導、雑談</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>9月7日(月)</td> <td rowspan="3">市道に面した団地内、集會室</td> <td>園芸場所の整地・苦土石灰を混ぜる</td> <td>有志</td> </tr> <tr> <td>9月14日(月)</td> <td>園芸場所にバーク肥料を混ぜる・防草シート張り、雑談</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>10月12日(月)午前</td> <td>芝桜苗の定植(100株)の準備、一部定植(ポットの穴あけ後)</td> <td>有志</td> </tr> <tr> <td>10月12日(月)</td> <td>集會室</td> <td>芝桜苗を定植(ポットの穴あけ後)、雑談</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>11月9日(月)</td> <td>集會室</td> <td>歌唱指導(ギター)、雑談</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>12月14日(月)</td> <td>集會室</td> <td>たこ焼きパーティ、歌唱指導</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td colspan="4">平成28年</td> </tr> <tr> <td>1月11日(月)</td> <td>集會室</td> <td>歌唱指導(ギター)、雑談</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>2月8日(月)</td> <td>集會室</td> <td>歌唱指導、雑談</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>3月14日(月)</td> <td>集會室</td> <td>ばら寿司パーティ、芝桜に追肥錠剤を挿入</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td>合計 88</td> </tr> </tbody> </table>	実施時期	場所	内容	参加者数	平成27年				6月8日(月)	集會室	たこ焼きパーティ、雑談	8	7月13日(月)	集會室	園芸場所の整地・囲い、歌唱指導(ギター)	9	8月10日(月)	集會室	歌唱指導、雑談	8	9月7日(月)	市道に面した団地内、集會室	園芸場所の整地・苦土石灰を混ぜる	有志	9月14日(月)	園芸場所にバーク肥料を混ぜる・防草シート張り、雑談	7	10月12日(月)午前	芝桜苗の定植(100株)の準備、一部定植(ポットの穴あけ後)	有志	10月12日(月)	集會室	芝桜苗を定植(ポットの穴あけ後)、雑談	8	11月9日(月)	集會室	歌唱指導(ギター)、雑談	9	12月14日(月)	集會室	たこ焼きパーティ、歌唱指導	9	平成28年				1月11日(月)	集會室	歌唱指導(ギター)、雑談	11	2月8日(月)	集會室	歌唱指導、雑談	10	3月14日(月)	集會室	ばら寿司パーティ、芝桜に追肥錠剤を挿入	9				合計 88	<p>・1年間活動したことで年を重ねるごとに社会との繋がりも薄れ、引きこもりがちな日常生活の中で、何か困ったことがあった時には、助け合える「仲間づくり」が徐々に浸透してきました。</p> <p>・芝桜を植えたことにより参加者以外の団地の方からだけでなく、近隣住民の方からも良く声をかけられ、芝桜を通してのコミュニケーションの場ともなっています。</p> <p>(来年度の活動内容について) ・事業収入を増やして補助金に頼らない活動として住民に協力をお願いして、アルミ缶回収を2回/月実施することにより、事業収入と住民とのコミュニケーションの増加を図ります。(大型専用ポリバケツ 数力所の設置) ・口コミを中心とした参加者の増加に努めます (今年度の掲示及び回覧を中心とした参加者募集の効果は、あまりなかった) ・参加資格を60歳以上(65歳から)に引き下げて、参加者の増加を図ります。</p>	(市民協働推進課) 毎月顔を合わせて活動することで、地域のきずなが深まり、何かあったときに「助け合える」関係になったことは大変意義深いものだと考えます。また、団地にお住まいの方だけでなく近隣住民からも声をかけられるなど、地域での認知度も高まっているように感じます。今後は、活動の幅をさらに広げ、地域住民同士のきずなを深める活動に期待します。	地域住民の引きこもり防止のため、憩いと交流の場を設けることは、「仲間づくり」の意識が浸透しただけでなく、災害時にも相互救助等で大きな効果を生ずると考えます。また、植樹のような「植物・自然の成長」をコミュニケーションツールに取り入れたことは意義深いものだと考えます。今後は、世代を超えてつながることのできる居場所となるよう、頻度を上げることや、プログラムの多様化を行い、他の地域のモデルとなっていただけを期待します。
実施時期	場所	内容	参加者数																																																																	
平成27年																																																																				
6月8日(月)	集會室	たこ焼きパーティ、雑談	8																																																																	
7月13日(月)	集會室	園芸場所の整地・囲い、歌唱指導(ギター)	9																																																																	
8月10日(月)	集會室	歌唱指導、雑談	8																																																																	
9月7日(月)	市道に面した団地内、集會室	園芸場所の整地・苦土石灰を混ぜる	有志																																																																	
9月14日(月)		園芸場所にバーク肥料を混ぜる・防草シート張り、雑談	7																																																																	
10月12日(月)午前		芝桜苗の定植(100株)の準備、一部定植(ポットの穴あけ後)	有志																																																																	
10月12日(月)	集會室	芝桜苗を定植(ポットの穴あけ後)、雑談	8																																																																	
11月9日(月)	集會室	歌唱指導(ギター)、雑談	9																																																																	
12月14日(月)	集會室	たこ焼きパーティ、歌唱指導	9																																																																	
平成28年																																																																				
1月11日(月)	集會室	歌唱指導(ギター)、雑談	11																																																																	
2月8日(月)	集會室	歌唱指導、雑談	10																																																																	
3月14日(月)	集會室	ばら寿司パーティ、芝桜に追肥錠剤を挿入	9																																																																	
			合計 88																																																																	

No.	申込団体名	決定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
3	エフエム宝塚 835倶楽部	300,000	<p>平成27年度は第1回予選を5月31日に、第2回予選を10月11日に開催。決勝大会は12月13日にそれぞれ行った。 会場は逆瀬川アピアホール、各回の参加者は66人、106人、95人。 審査員は、河内厚郎(文化プロデューサー)、河西鈴子(FM宝塚パーソナリティ)、青木和雄(FM宝塚パーソナリティ)、須山公美子(宝塚シャンソン化計画代表)、吉永真悟(音楽プロデューサー)、イッセイKAWABATA(ボイストレーナー)。 特に、シャンソン部門は7人、16人、15人とたくさんの方に参加いただいた。</p>	<p>河内、須山さんが審査、ピアノが吉田さんと大御所のもとで歌えるとあって華やかなステージ衣装もあいまってとても素敵なステージになりました。 「宝塚シャンソン化計画」10周年を記念して、河内先生に「宝塚とシャンソン」を語っていただき、須山さんには特別ステージをお願いしました。 なお、シャンソン部門の優秀者には、表彰状、盾、お米(5kg)、宝塚温泉のお食事券、お買い物券などを提供して地域の認知度の向上にも寄与しました。 そして最優秀者には、来年の「宝塚バリ祭」に出演していただくことになりました。 またエフエム宝塚では、28年1月から新番組をスタート。「宝塚とシャンソンの熱〜い関係」と題して、関西でのシャンソンにエールを送る方々を毎回ゲストにお迎えし、シャンソンと共に生きる愉しみやこれからのヴィジョンを発展的に熱く語りあい、日本のシャンソン発祥の地・宝塚からシャンソンの未来を見つめます。(6回シリーズ、3月末まで)</p>	<p>(文化政策課) シャンソン部門の優勝者が翌年の「宝塚バリ祭」に出演することや、当日の模様をラジオ放送、インターネット放送、また、J.COMでも放送されるなど、音楽を通じて宝塚をPRする良い機会となっています。 新番組もスタートしたことから、今後、音楽による宝塚の活性化に期待します。</p>	<p>シャンソンを通じて、宝塚の活性化に貢献された企画であり、宝塚のブランド力を高めるうえで評価できます。今後は、シャンソンのみならず幅広いジャンルを通じて、宝塚のさらなるPRにつなげていただくことを期待しています。</p>

No.	申込団体名	決定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
4	宝塚猫の里親を探す会	187,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護実施時期は通年TNR(捕獲・手術・戻す)活動の際、家庭猫になれる可能性のある猫を発見した際、保護できる状況であった場合実施。</li> <li>場所:宝塚市内(主に小林・小浜・売布)</li> <li>・一時保育ボランティア募集を行う</li> <li>9月 動物愛護週間に逆瀬川アピアで行ったイベント内でチラシ掲示</li> <li>10月 にしきたフリマで掲示</li> <li>11月 逆瀬川で行った譲渡会にて掲示、にしきたフリマで掲示</li> <li>2月 逆瀬川で行った譲渡会にて掲示、対象者に口頭で勧誘</li> <li>・譲渡会を開催</li> <li>11月1日 来場者50人 2月14日 来場者150人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護数 成猫2匹、子猫31匹(合計33匹)</li> <li>譲渡数 成猫2匹 子猫24匹(合計26匹)</li> <li>(死亡1匹、依頼者へ戻す2匹、現在保護中4匹)</li> <li>・一時保育ボランティア 3名</li> <li>・事業による効果としては、親猫にTNRを行い、子猫を保護したことで、その地域の猫の減少、ふん尿による環境悪化の抑制、新たに生まれることへの不安と不満の解消につながっている。数年経過を見守れば効果ははっきりと表れてくる。</li> </ul>	(生活環境課) 飼い主のいない猫の保護及び新しい飼い主への譲渡については、本市の施策としては実施していないため、民間においてこのような取り組みを行っていただくことの意義は大きいと考えます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>犬猫ペットの飼い主の高齢化と共に、ペットを放棄する事例も多くなる中、今後も飼い主不明の猫の増加は、自治体としても大きな課題として位置づけられます。</li> <li>今後も、協力者を広く集い、事業を継続していただくとともに、行政とともに活動の広報を進めていただき、排除しないでともに生きることの啓発につながることを期待しています。</li> </ul>
5	にしたによいしょ	169,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 創刊号発刊の1年後の平成27年度に市の助成金「きずなづくり推進事業補助金(自由提案型)」の申請が採択され、その後、順次、発行部数を増刷して、宝塚市南部や他市町へも配布を増やしてきた。</li> <li>・ 取材の過程で、西谷を訪れる団体(武庫川学校むすケッチクラブ・猪名川町、西宮市に居住の自然保護、育成活動団体)等と交流を広げ、地域内のよいところを紹介の上、情報発信について協力を得る。</li> <li>・ 月に2回以上のスタッフ会議を開き(任意の無償のボランティア協力者)印刷物の整理や配布の分担を決めた上、次回の記事の編集計画を立てる他、別途、編集委員のみの会を開き、取材の段取りや校正等を行う。</li> <li>・ 渉外を担当するスタッフは、それぞれの地区での行事や催しなどに関して、情報を編集委員に知らせる。</li> <li>・ 情報を的確に蒐集するため、平成28年2月より、月1回自主的に地域活動を行っている人たち(農業の振興のための組合組織を結成したり、他所から移り住んで農業をしている人たち)が集まって行う座談会を取材目的で行っている。(当初の参加数、20数名)</li> <li>・ 西谷の魅力ある風土を表す景観に目を向けて、季節に合ったものをカメラに納めて記事を通じて公表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 創刊号発刊以来3年目を迎える今は、「にしたによいしょ」の認知度が高くなってきていることに気づかされます。これは、発行部数が26年度創刊号(4月号)で2,000部であったのが、その後、地域外の住民や施設及び団体の声が届くようになり、27年4月に3,000部、28年2月号で4,000部、28年4月号で5,000部に増刷、そして、4ページから6ページに増やして配布するようになったのも地域外の人たちの西谷への関心度が高くなってきていることへの証であるといえるでしょう。</li> <li>・ 最近、農地や空き屋の借用などで依頼の連絡がよくある。「にしたによいしょ」の運営方針として、この場合は西谷自治振興へ連絡をとって斡旋を引き継いでいただく方針をとっている。「にしたによいしょ」は、あくまで、情報発信の団体で、それ以上、深くは関わることは現状からして無理が生じるので、こうして、本誌で発信する情報がより多くの人たちに届いて、動きを見せてもらえる人や団体を受け入れる体制づくりが必要とする認識が高まっている。</li> <li>・ 今、月1回開いている座談会は、4月には地域外から5人の方が参加され、農業の活性化活動について意見を交わして帰られた。西谷の広い農地に非常に関心を持たれている様子が伺われ、今後の西谷への好影響を期待したい。</li> </ul>	(北部振興企画課) 月1回の発行で西谷地域内の様々な情報を発信している唯一の情報媒体となっている点で、非常に存在意義の高い発行物となっている。今後も当団体とは連携していき、空き家対策等にも取り組んでいきたいと考えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「にしたによいしょ」創刊号から現在まで、内容の充実と発行部数の伸びが顕著であり、郷土の特性や愛着を大いに広めておられる媒体として高く評価します。また、市内の地域情報発信のモデルとして、新名神の開通をきっかけに、注目度が増していくであろう西谷地域にとってなくてはならないものだと考えます。</li> <li>南部の市民に向けての情報発信の場を増やしていただき、刊行の継続とさらなる活動の広がりに期待します。</li> </ul>

No.	申込団体名	決定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
6	宝塚保養キャンプ実行委員会	300,000	<p>2015年7月11日(土)「第7回宝塚保養キャンプ」報告会 会場・カトリック黙想の家・宝塚 参加者:18名(宝塚市民11名)</p> <p>2015年8月16日(日)～22日(土) 第8回・宝塚保養キャンプ(6泊7日) 宿泊場所 尼崎市立青少年いこいの家(8/16～18)・高野山真言宗西光院(8/18～22) 参加者:福島県などからの子ども13名・大人5名 ボランティア122名(宝塚市民48名) 内容:バーベキュー 自然散策 公園で遊ぶ 整体(大人) 宝塚・市民プール 等</p> <p>2016年3月6日(日)「第8回宝塚保養キャンプ」報告会 会場・カトリック黙想の家・宝塚 参加者25名(宝塚市民12名)</p> <p>2016年3月26日～4月1日 第9回・宝塚保養キャンプ(6泊7日) 参加者:福島県などからの子ども9名・大人4名 ボランティア115名(宝塚市民55名) 宿泊場所:高野山真言宗西光院 内容:宝塚神社でバーベキュー(花見) ほっこり湯(宝塚市大成町7番)・掃除・入浴 良元小学校・育成会との交流 自然散策 すみれ発電所(真言宗大林寺)見学 等</p>	<p>・蔵人共同浴場(ほっこり湯)にてボイラー見学、清掃作業体験を通じて、キャンプ 中お世話になっている、ほっこり湯への感謝と理解を深めることができた。</p> <p>・宝塚市立良元小学校育成会と交流を通じて、被災地と宝塚の子ども達が直接 交流することで心の繋がりを築けた。</p> <p>・宝塚すみれ発電所見学によって、宝塚の新エネルギー発電への取組みを学ん だ。</p> <p>・すみれミュージアム見学によって、宝塚の文化とも言える宝塚歌劇を映像等で 感じる事ができた。</p> <p>・ほっこり湯(お風呂)、すみれ発電所、すみれミュージアム、手塚治記念館、市民 プール等に見学や参加することを通して、宝塚市民と被災地の子どもたちとの交 流を図ることができた。</p> <p>・事前に行われた「避難者の声を聞く勉強会」と「キャンプの調理講習会」によつて 宝塚市民に対して保養キャンプの周知と理解を深めることができた。</p> <p>・保養キャンプに参加した子どもたちや保護者が放射線を気にせず自由に伸び 伸びと外遊びや行事に参加することができた。</p>	<p>(学校教育課) 福島原子力発電所の事故で被曝を受け た子どもたちとその家族が、宝塚の地にお いて、安全な食事をしたり、宝塚の子ども たちと交流するなど、放射線を気にせず自 由に伸び伸びと活動できたことは、たいへ ん意義のあるものだったと考えます。この 活動を通して、さらに市民の理解が深ま り、地域で協力し合う体制づくりにつなが ることを期待します。</p>	<p>被災地域の子どもと宝塚市の子どもとの 交流は、お互いの「心の成長」において大変 意義深いものと考えます。また、被災地域の 子どもたちとの交流を通じて、防災について 考え直すきっかけとなるのではないかと考え ます。課題としては、参加人数があまりにも 限定的であることから、本事業の活動を考え るうえでも、参加人数の増加の手段を検討さ れることを期待しています。</p>

No.	申込団体名	決定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
7	air Space”空”	225,000	<p>時 期： 月2回程度 年齢層を問わずオープンに参加できる「おそらの日」を定期開催</p> <p>催 場 所： おそらのいえ 宝塚市武庫山1丁目 民家</p> <p>回 数： 月2回</p> <p>内 容： 8月26日 プレイベント</p> <p>参加者数 9月 9日 ヨガ (大人15 小人2)</p> <p>9月30日 育自の魔法WS (大人4 小人2)</p> <p>10月14日 栄養とおやつ (大人6 小人5)</p> <p>10月28日 指談 (大人9 小人2)</p> <p>11月11日 アーユルヴェーダ (大人20 小人7)</p> <p>11月25日 涙は心の自然治癒力 (大人8 小人4)</p> <p>12月 9日 フラメンコ (大人6 小人4)</p> <p>12月13日 音をたのしむ発表会 (大人2 小人9 観客12)</p> <p>1月13日 冬のお肌お手入れ (大人7 小人3)</p> <p>1月27日 経絡ストレッチ (大人13 小人8)</p> <p>2月10日 メディカルアロマ風邪予防 (大人6 小人8)</p> <p>2月24日 褒め言葉のシャワー視力向上ヨガ(大人18人 小人15)</p> <p>3月10日 美腸で超元気 (大人4 小人4)</p> <p>3月21日 大人のための絵本 (大人5 小人2)</p>	<p>・さまざまなジャンルの学びを提供することにより、そこに集まる学び合う仲間としての年代、性別を問わないきずなづくりのきっかけとなる場を提供できた。</p> <p>・定期的な開催をすることにより、地域での継続的な集いの場となった。</p> <p>・さまざまなジャンルの学びを始めるきっかけとなり、参加者の興味や楽しみが広がる場を提供することができた。</p> <p>・産後の母子が安心して集える場となり、互いに育児について話し合い、成長を喜び合える場を提供することができた。</p>	<p>(子ども家庭支援センター)</p> <p>住民の転入・転出が比較的多く子育て支援施設の手薄な地域において、年齢層を問わずオープンに参加できることを前提に毎回異なるジャンルを複合的にメニュー化して子育て世代だけでなく地域の高齢者とも一緒に集い学ぶことを実践されたと評価します。</p> <p>今回は計画よりも参加者数が少ない部分もありましたが、今回の実績を踏まえながら地域の親子の居場所として、気軽に足を運び行事に参加できるように今後さらに工夫しながら取り組まれ、これをきっかけとした地域のきずなが深まることを期待します。</p> <p>(健康推進課)</p> <p>産後の母子が集える場として、一定の成果が得られたと考える。</p>	<p>多世代が集まる共生型の居場所づくりだけでなく、外出が難しい産後の母子が安心して集える場を提供された大変意義深い事業であると考えます。</p> <p>課題として、本事業は、「広域性・社会性」がかなり限定的であり、民間のカルチャーセンター的要素が強いことから、今後は補助金がなくても工夫して、集いの場を継続されることを期待しています。</p>
8	一般社団法人 宝塚青年会議所	300,000	<p>(セミナー本体)</p> <p>実施期間 平成27年7月31日(金)～8月2日(日)</p> <p>場 所 宮城県牡鹿郡女川町、石巻市雄勝町</p> <p>回 数 1回(2泊3日)</p> <p>参加人数 宝塚市内在住・在学中中学生 20名 宝塚青年会議所メンバー 11名</p> <p>(報告会)</p> <p>①平成27年8月7日(金) 宝塚市役所特別会議室において、宝塚市長をはじめとする市関係者への報告会を実施</p> <p>②平成27年8月26日(水) エフエム宝塚のラジオ放送において、参加中学生2名が出席。セミナーでの体験談を披露</p> <p>③平成27年9月13日(日) 当青年会議所創立50周年記念式典・祝賀会において、国会議員・知事・市長・県民局長などの行政関係者や各種団体、兵庫県下の青年会議所メンバー190名、当青年会議所OBなど総勢300名に対し、記念事業報告として、事業紹介を行った。</p> <p>④平成27年12月7日(月) ソリオホールで行われた、Believe汐見真帆心の復幸(復興)コンサートにおいて、中学生の東北訪問者として、参加中学生1名が出演し、セミナーの体験談を披露した。</p>	<p>本事業により、</p> <p>・参加中学生が震災被害及び復興について考える機会となった。</p> <p>特に、大人による体験談だけではなく、現地中学生との交流の機会もあったなかで、同世代の体験談を聞くことができ、大川小学校の見学では津波被害の威力を目の当たりにし、また、自分たちと同世代が犠牲になったこともあり、感じ入る中学生も多かった。セミナー本体の事業最終日、仙台空港において参加中学生のインタビューを実施したが、震災についての感想を話してもらえた。</p> <p>・被災地と民間レベルの交流のきっかけとなった。</p> <p>本セミナーの準備過程において、当青年会議所メンバーが何回も現地を訪れ、現地協力者との打ち合わせを行うこととなり、一定の信頼関係を築くことが出来たが、セミナーにより総勢30数名のメンバー・中学生が現地を訪問し、交流し、様々な体験をすることで、互いに交流を深め、絆を作ることができたと考えている。</p> <p>・参加中学生同士の絆を作ることができた。</p> <p>参加中学生は市内10校からの参加であり、数名の顔見知りを除いてはほぼ初めて顔を合わせる関係であったが、2泊3日行動を共にする、苦労を分かち合い喜びを共有する体験において、セミナー終了時点では皆が仲良くなり、仲間と言える関係を築くことができた。</p> <p>さらに、報告会を実施することで、これらの体験を宝塚市内に広くPRし、被災地への興味関心を持ってもらえたと考えます。</p>	<p>(学校教育課)</p> <p>中学生が被災地を訪問し、体験談を聞いたり、現地の中学生と交流するなどして、被災地の現状を知るとともに、日常では経験することのできないことを経験し、人と人とのつながりの大切さや命の大切さを改めて学ぶ機会となり、たいへん意義のあるものだったと考えます。この体験を通して、さらに自分たちが地域の中でどのような役割ができるかを考えて行動し、元気で生き生きとしたまちづくりにつながることを期待します。</p>	<p>被災の現場を実際に訪れて、現地の方々が体験された話を聞かせていただくことにより、参加者が得るものは大きいと考えます。</p> <p>また、宝塚に戻ってきてから、市長への報告やFMを通じての報告がなされるなど、有意義な事業であると考えます。</p> <p>課題としては、参加人数があまりにも限定的であることから、本事業の活動の広がりを考えるうえで、参加人数の増加の手段を検討されることを期待しています。</p>

No.	申込団体名	決定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
9	宝塚むこスケッチ会	150,000	<p>① 西谷地域のスケッチポイント、隠れた見どころなどを抽出し、関係者ヒアリングなどを通じて西谷関連の資料収集を実施。6月～10月</p> <p>② 西谷地域を対象としたスケッチ作品募集準備。応募案内チラシ作成、配布など。7月</p> <p>③ 西谷地域を対象としたスケッチ作品募集。8月～10月 28名から合計82点の作品が応募。</p> <p>④ スケッチ作品展示会及び市民投票会準備。案内チラシ作成、配布。 10月～11月上旬</p> <p>⑤ スケッチ作品展示会及び市民投票会。 11月13日～15日 西谷会館 延べ304名投票 11月21日～23日 西公民館 延べ353名投票 合計657名が来場し投票した。スケッチ作品展示会来場者はそれぞれ800名以上にのぼると想定。</p> <p>⑥ 市民投票の集計、自由意見の集計。「宝塚の桃源郷・西谷(試行版)」著作作業。12月～1月 地域性を配慮し西谷会館、西公民館、全体の集計ごとに上位投票数上位24位を選とする。その結果、合計32点の作品を選作品とした。</p> <p>⑦ 入選作品展示会の準備。案内チラシ作成、配布など。「宝塚の桃源郷・西谷(試行版)」300部印刷、入選作品集600部印刷。「宝塚の桃源郷・西谷(試行版)」関係者配布 2月～3月</p> <p>⑧ 入選作品展示会及び西谷フォーラム開催。3月12日、13日 展示会参加者約250名、西谷フォーラム参加者約40名、入選作品集無料配布。 「宝塚の桃源郷・西谷(試行版)」領布1冊300円。</p>	<p>① 目的どおり西谷地域をより広く深く知ってもらい、交流促進していく素材として「宝塚の桃源郷・西谷(試行版)」を作ることが出来た。</p> <p>② スケッチ作品募集やガイドブック作成過程を通じて、西谷の魅力を伝え、西谷の人々と交流する活動が芽生え、相互に協働していくネットワークづくりが促進された。</p> <p>③ 今後、新名神開通にともなう西谷地域のまちづくりを検討するうえで、有用な素材が提供でき、広く市内外に地域をアピールすることが期待される。</p> <p>④ 今回作成したガイドブックを活用した様々な波及効果や活動が期待できる。</p>	<p>(北部振興企画課)</p> <p>西谷地域のスケッチポイントを詳細な地図とともに紹介している点で、西谷地域の魅力を広く市内外にPRできる素材であると考え。平成28年度末の新名神高速道路(仮称)宝塚SA及び(仮称)宝塚北SIC開業に伴う、西谷地域への誘客のツールの1つになりえるものだと思う。今後も、SA及びSIC開業を見据え、誘客面で様々な連携を行っていきたい。</p>	<p>西谷地域を参加者の様々な視点から、個性あふれるスケッチを通じて紹介されるとともに、参加者が入選に向けての高いインセンティブを持って取り組まれる本事業の意義は大きいものと考えます。西谷の魅力を伝える、効果的な事業ですので、市内における他の地域においても、スケッチを通じて宝塚の魅力が広まることを期待しています。</p>

No.	申込団体名	決定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
10	雲雀丘100年 浪漫委員会	500,000	<p>H27/4/1～ 景観形成建造物復興事業部会会議 通常は毎月第一月曜日15:00～ 繁忙期は原則として毎週月曜日15:00～</p> <p>4/10 わがまちの写真募集案内配布 4/1～7/31 関係機関への所蔵資料調査 6/4 京都国立博物館所蔵の万籟山古墳埋蔵物の資料入手 5/20 宝塚市図書館にて資料入手 7/15 雲雀丘学園にて資料入手 5/31 わがまちの写真募集締め切り 6/1～6/30 応募資料・収集資料の整理 7/4 第1回わがまちの写真展チラシ配布 7/25 記念セミナー「新聞記事で学ぶ宝塚の歴史」(講師:倉橋滋樹氏 参加:70名) 8/1～3 第1回わがまちの写真展開催(見学者数350人、スタッフ10名) 10/1～3/31 記念誌編集作業 H28/2/1～ 資料の活用方法・伝承システムの検討 2/12 雲雀滝調査(尾崎邸内) 2/23 第2回わがまちの写真展記者発表 2/24 第2回わがまちの写真展チラシ配布 ホームページ開設(hibari-takarazuka.com) 3/19 第2回わがまちの写真展開催(見学者数150名、スタッフ10名) 講演会「雲雀丘100年を語る」講師:佐野行俊氏 参加者50名 3/20 関係者とまち歩き及び意見交換会 まち歩きマップ作成</p>	<p>1.意識の共有による人のつながりの改善 1)記念セミナー「新聞記事で見る宝塚の歴史」の開催 写真展の開催に先立ち、市西公民館館長倉橋滋樹氏から大正・昭和期に発行された宝塚に関する新聞記事をもとに地域の歴史を学んだ。鉄道・温泉・住宅地開発等、新しいまちづくりへのダイナミックな挑戦を知った。 2)わがまちの写真展(2回)の開催 地域の歴史を写真で紹介する写真展を8月と3月に実施。8月の写真展には、約120点の資料を展示。その中には宝塚市立図書館・阪急電鉄・雲雀丘学園等から提供された資料の他、旧精常園創設者の別所氏が所蔵し、京都国立博物館に寄贈された「万籟山古墳」からの出土品のうちの銅鏡、金環等6点について利用許可を得て展示した。 3月の写真展では、8月の展示資料に加えて、雲雀丘の地名の由来である「雲雀滝」の写真を土地所有者の尾崎氏のご協力で展示することができた。併せて開催した宝塚学博士・佐野行俊氏による講演会「雲雀丘100年を語る」には、50人を超える入場者があり、会場に入りきれないほどの盛況ぶりであった。収集した写真資料は画像データとして保存・活用できるようにした。 3)電子チラシの作成 地域内外の多くの人々に当地域の魅力を発信し、将来のまちづくりに興味・関心がもてるようにホームページ(http://hibari-takarazuka.com)を開設し、3月に開催したわがまちの写真展のチラシを電子化した。今後は、地域の様々な情報を発信できるように内容を充実させて行きたい。 4)まち歩きマップの作成 これまでの活動の成果として、まちあるきマップを作成した。住宅地であるためこのマップを配布し、個々にまち歩きを楽しんでいただくことはできないが、地域関係者にこの資料を継承し、まち案内に活用したい。</p> <p>わがまちの写真展には多くの方のご参加を頂いた。子ども連れの新しい住民の方からは「この地域の素晴らしい歴史と文化を子どもと一緒に知ることができました。自分たちで何ができるか考えます。」とのコメントを頂いた。本事業を通じて住民が地域の良さに関心をもち、自らがまちづくりの主体であるという意識が共有されるとともに、人々のつながりが広がっていくことを実感した。</p> <p>2.住民と行政との連携の深まり 開発100年の節目にあたり、まだ残されている貴重な文化遺産を大切にしつつ、より住みよい新しい「まち」にブラッシュアップして行くことが求められており、縁あって今ここに住まう我々住民や時の行政がそれを担わなければならない。この事業は、宝塚の景観資源を発掘し、地域内外や後世に“宝塚の素晴らしさ”を伝える重要な事業に位置付けられている。より良いまちづくりを進めるには住民と行政が情報を共有し、強固な繋がりをもつことが不可欠である。今回の活動を通して、市の担当者からの的確なアドバイスやサポートがあり、また、イベント会場では地域住民とも積極的にコミュニケーションが図られ、住民と行政の繋がりがより固く身近なものとなった。さらに当地域の魅力をより多くの住民が共有し、これからのまちづくりに関心をもつ良い機会となり、地域住民同士や住民と行政との繋がりの充実化を実感し、未来に向けての“まちづくり・きずなづくり”に大きく寄与する成果を得た。</p> <p>この事業で発掘された景観資源資料をどのように守り、伝え、整備し、発信して行くべきかが今後の大きな課題である。これらの資料を有効に活用するには保存・展示ができる資料館的な空間とともに、人々が集い、交流できるきずな空間が必要である。景観形成建造物の一つである旧安田邸は、その機能を果たすに最も相応しい空間であることから、その利活用について今後更に検討を進めたい。</p>	<p>(都市計画課) 景観を守り、育てるきっかけの一つとして景観資源発掘事業を提案しました。 当初は、地域の美しい景色や、おすすめスポットを写真に収め、まち歩きに利用できる、「まちのマップ」づくりなどをこの事業の成果品として思い描いていました。 しかし、住民のあふれるアイデアやパワーは、こちらの予想をはるかに上回るものであり、予想以上の成果があったと思います。 活動のほとんどが住民の発案で、自らが考え、自らが地域に発信し、住民主体で1年間さまざまな活動をされました。例えば、地域の枠を超えて様々な方に声をかけ、資料を集め、今後これらのデータを生かせるように画像データとして保存を行ったり、まちの歴史を勉強したり、写真展を開催したり、ホームページを開設し、写真展の案内を電子化して発信したりと多岐に渡る活動を行っていただきました。行政はほんの少しサポートを行う程度でした。 これらの活動に、時々、行政も参加させていただく中で、この取り組みが世代を超えて地域内の人と人とを繋ぎ、また、地域外の方々との交流を行うことにより、今後のまちづくりに繋がる人のつながりが築けたように感じます。 行政提案型による都市計画課のきずなづくり推進事業補助は平成27年度のみですが、この事業を始まりとして今後も地域との協働に努めていきたいと思います。</p>	<p>雲雀丘地域の歴史的な建築物と景観について、明確な目的と練られた事業計画に基づいて実施されたことを高く評価します。本事業は、地域の歴史を研究し、資料化することにより、後世に伝えることのできる大変貴重な事業であると考えます。雲雀丘から始まって、市全体にこのような活動が広まっていくことを期待しています。</p>

No.	申込団体名	決定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
11	虹の輪コンサート	222,000	<p>日時:2015年12月6日(土)10:30~11:40  場所:宝塚市立東公民館  協働団体:(5団体)虹の輪コンサート、宝塚市手をつなぐ育成会「スタジオFC」、カントリーバンド「シルキーコットンズ」、紙芝居サークル「ちようちよ」、宝塚アーティスト協会  参加者数:活動にかかわった人数 5団体、約50人  お客様人数:約160~170名  内容:①スライド紙芝居「僕 カウボーイ?」  ②ジャズダンス(スタジオFC)  ③カントリー&amp;ウエスタン演奏とダンスの協演(シルキーコットンズ&amp;スタジオFC)  ④カントリー&amp;ウエスタン演奏(シルキーコットンズ)  ⑤バンド、ダンス、会場全員で「10人のインディアン」歌と踊り</p>	<p>●最初は我々とスタジオFC、シルキーコットンズの3団体で計画したが、計画を練る段階で協力いただく団体が増え5団体での共創と広がりのある活動になった。  ●団体が増えたためもあり、多くのメールでの打ち合わせに加えて、関係団体や全団体が集まったの打ち合わせなど、みんなで創り上げた共創のコンサートを実感できるものとなった。  ●飛び込みでお願いした「シルキーコットンズ」のリーダーは、最初は障がい者のダンスグループとの協演は不可能だとおっしゃっていたが、スタジオFCの練習を実際に見てもらったところ、大いに感動され「ほろりと来た。いいコンサートになると実感した。」と言っていたが、その後の積極的な協力には、こちら恐縮するほどだった。いつも感じることだが、参加したプロのミュージシャンの考えが、大きく変わることを今回も経験し、この活動の持つ意味を確信した。  ●共通のCDに合わせて、バンドとダンスグループ双方が練習し、本番前に実際のバンドをバックにダンスを踊るリハーサルなどを通じて、一緒に「創り上げた」ことを感じてもらった。  ●終了後、観客の方が舞台に行き、バンドの方にお礼を言って帰る人や、ダンスがよかったと声をかけて帰られる人もいた。共創・協働コンサートは、誰の心も感動させる何かがあるのだろう。</p>	<p>(文化政策課)  乳幼児の参加を広く呼びかけるための紙芝居の上演や、障がいのある方が、宝塚歌劇団OGの振付とプロのカントリーミュージシャンのバック演奏によるダンスを披露するなど、日頃文化芸術に親しむ機会の少ない市民に対して、体験や発表の機会を提供したことは意義深いことだと考えます。</p>	<p>なかなか参加することが難しい乳幼児、障がいのある方が、音楽・芸術に直接触れる機会であり、「心の豊かさ」に通じる事業として高く評価します。様々な工夫を凝らすスタッフの熱意が感じられ、音楽やダンスを通して障がいのある人たちと一体となる貴重な事業であると考えます。今後も、より多くの人々の参加を促す事業のPRだけでなく、コンサート内容を変えながら、継続されることを期待しています。</p>